

Engineering

エンジニアリング

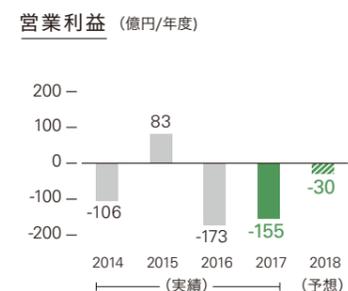


事業環境と実績

環境・エネルギー分野については、当社グループのバイオマス発電事業として、2017年9月に市原バイオマス発電所(千葉県市原市)の建設工事を開始しました。再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT制度)による買取価格は下落傾向にありますが、当社では今後もバイオマス発電事業を、グループ会社であるBurmeister & Wain Scandinavian Contractor A/S(BWSC)との協業で拡大していきます。また、風力発電事業では主力の陸上風力発電に加え、新たに着床式洋上風力発電を市場投入し、受注拡大に向けて取り組んでいきます。

海外インフラ分野については、東南アジアで恒常的な電力不足が喫緊の課題ではあるものの、新たな投資計画は遅延する傾向が見られます。そのようななか、既に受注しているインドネシアで2件、ベトナムで1件の石炭火力発電所土木工事を

を進めています。石油化学分野については、原油価格の回復により海外・国内ともに市況は回復傾向にありますが、当社グループにおいては受注戦略の見直しにより、海外大型案件の受注を控えました。受注高は、バイオマス発電所建設工事などの受注がありましたが、前連結会計年度と比べて220億53百万円減少(△14.7%)の1,278億40百万円となりました。売上高は、石油化学プラント建設工事や発電所土木工事の進捗などにより、前連結会計年度と比べて177億83百万円増加(+10.9%)の1,803億81百万円となり、営業損失は、懸案となっていた連結子会社におけるプラント工事が建設完了したことなどにより前連結会計年度と比べて17億87百万円減少の155億45百万円となりました。



Our Action 変革への取り組み

Our Action 再生可能エネルギーを活用した事業を積極的に推進

● 向浜風力発電所完成
2018年1月、(株)ウェンティ・ジャパンと日本製紙(株)が設立した合弁会社「日本製紙ウェンティ風力株式会社」が、秋田県秋田市向浜地区で運営する向浜風力発電所建設工事を完成し、引き渡しました。設計、風車・変電機器などの調達、施工および試運転調整までを一括して請け負いました。日本有数の風力導入規模を誇る秋田県で、本工事を皮切りに、更なる受注を目指します。



向浜風力発電所

● 千葉県市原市におけるバイオマス発電所の事業化が決定
2017年9月、伊藤忠商事(株)、大阪ガス(株)、三井造船(株)は、千葉県市原市の現三井E&S造船千葉工場内の敷地において、バイオマス発電所を建設することを決定し、3社の共同出資による事業運営会社「市原バイオマス発電株式会社」を設立しました。三井造船(現三井E&Sエンジニアリング)が施工および運転・保守、伊藤忠商事(株)がバイオマス燃料の供給を行い、大阪ガスの発電所運営の知見を組み合わせることで、各社の強みを活かした安定的な事業運営を行います。



千葉工場内建設予定地

Our Action 社会の発展に不可欠な産業インフラの提供

● 米国エクソンモービル社向けエチレンプラント用分解炉を建設完了
2018年3月、エクソンモービル社より2013年10月に受注し、米国テキサス州で建設を進めてきたエチレンプラント用分解炉の建設が完了しました。本プロジェクトでは、フランスのハーティ・ペトロケム社とコンソーシアムを組み、当社、ハーティ・ペトロケム社ともに双方の米国子会社を活用してプロジェクトを遂行しました。2012年にも共同でエクソンモービル社向けに世界最大規模のエチレンプラント用の分解炉をシンガポールに納入しており、それに続いての納入実績となりました。



完成したエチレンプラント用分解炉

Message 新事業会社社長より

旧三井造船時代から80年にわたり国内外でEPC(設計・調達・工事)をスコープとする各種エンジニアリング事業を推進してきました。世界的な今後の社会ニーズはエネルギー消費量の増加、エネルギー源の多様化、非在来型エネルギーの実用化、インフラ・産業設備需要の増加、環境保全需要拡大などますます多様化し複雑になってきています。そのような状況のなかで、当社は今展開している3つの事業分野(バイオマス・風力・太陽光などの再生可能エネルギーを中心とした環境エネルギー事業、海外発電設備の土建を中心としたインフラ事業、石油化学・無機化学プラントを中心としたプラント事業)および新規事業において、長年培ってきた技術・ノウハウと国内外子会社を含めたエンジニアリング総合力で、お客様の期待にお応えしていきます。



株式会社三井E&Sエンジニアリング
代表取締役社長 新牧 拓也